

— 見えてきた昔の袋井 —

さかじり遺跡

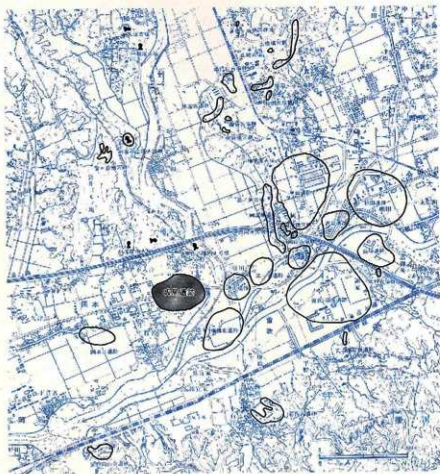


大和ハウス工業株式会社中部工場建設
に伴う坂尻遺跡緊急発掘調査概報

1991 静岡県袋井市教育委員会

例 言

1. 本概報は、大和ハウス工業㈱中部工場建設に伴う平成2年度坂尻遺跡緊急発掘調査概報である。
2. 調査は、袋井市教育委員会社会教育課文化振興係の吉岡伸夫、松井一明、加藤理文を担当者とし、森井雅彦、白澤崇を調査員として実施した。
3. 本概報に掲載した挿図・写真図版はすべて吉岡、松井、加藤が作成した。
4. 本概報の執筆は吉岡、松井、加藤が、編集は加藤が行なった。
5. 発掘調査資料は、すべて袋井市教育委員会が保管している。
6. 本書の作成にあたっては下記の方々に御教示、資料の提供を賜り、記して感謝の意を表します。(敬称略)
井上喜久男、加藤芳朗、小柴秀樹、寒川旭、柴垣勇夫、原秀三郎、平野吾郎、向坂鋼二
7. 本発掘調査を円滑に進めることができたのは、大和ハウス工業㈱の献親的な御協力によるものです。記して感謝の意を表します。



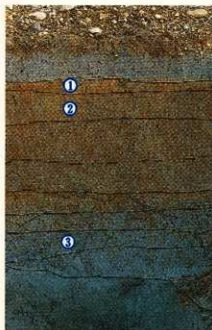
▲ 古墳時代中・後期の遺跡・分布図

土から見える歴史

土の堆積した状況は？

今回の調査では、①中世鎌倉・平安期の遺物を含む層②奈良・古墳時代を中心とした遺物を含む層③弥生時代後期の遺物を含む層の3時代の土の層を確認することができました。

中世の遺跡の上に堆積しているのは近代・現代の水田耕作土です。奈良時代と古墳時代は、時代ごとに分けることはできませんでした。板瓦遺跡は、原野谷川と古名栗川の氾濫によって形成された砂礫層を基盤とした自然堤防上に立地しています。今回の調査でも両川の氾濫と思われる砂礫層が見つかっています。



	日本のできごと	装井・板瓦遺跡のできごと
	日本経済の高度成長 太平洋戦争	板瓦に大和ハウス建設計画 東南部地震にて大被害 可動着風園塔完成
1900	第1次世界大戦 集約改正、日清戦争 明治維新	高尾村民、大門口塚を免服 法多山本堂焼失
1800	開国、大規模の改革 寛政の改革 田沼の政治 享保の改革 文治政治 人名の統制、戦国完成	江 板瓦遺跡で用水路される 第1次仲井用水配給 米作「笠の意」あらわす 袋井宿に助郷紙を下付 室永の大地震で大被害 久野藩滅亡
1700	江戸幕府の成立 豊臣秀吉が天下を統一 織田信長の統一事業 ヨーロッパ人の来航 戦国大名、下剋上の世 忠仁の乱	安土 久野宗能、久野藩主となる 山崎城で太閤検地 水原順の戦い 可成藩独立、西家寺消失 久野城築城 東海道沿の府次に「袋井」を載せる 今川了俊、九州探題となる 町 袋井、織手の戦い
1600	足利義満、勘合貿易開始 南北朝、合一 足利尊氏、室町幕府開く 建武中興 元の来襲 承久の乱	鎌 板瓦遺跡での人々の活動なくなる 日蓮、新地氏に手紙を送る
1500	北条氏の執権政治 鎌倉幕府の成立 武士の政權 保元・平治の乱 院政が始まる 興隆の役、後三年の役 藤原道長が摂政となる 摂関政治の発展 平将門、藤原純友の乱 花園の発遣、武士のおこり 成吉思汗を痛く	倉 板瓦の供養 普門寺に梵鐘納入 平 板瓦に屋敷が築かれる
1400	平安京に都を移す 平城京に都を移す 大正律令の制定 藤原京に都を移す 大化の改新 漢書を承道 聖徳太子摂政となる 仏教伝来	安 掛川市梅北遺跡で有力集落成立 板瓦遺跡の郡役所・駅家遺跡とする 富士浅間宮の造営 機造勢、板瓦製にて病死 赤尾池垂神社の遺賀 油山寺、尊永寺、西家寺の創建 板瓦遺跡に群役所・板家が置かれる 佐野、山名、長下郡が置かれる 山田原古墳群の形成 賀々谷に横穴群が造られる 飛鳥 板瓦遺跡に有力者の集落できる 古 新門坂に寺家ができる 大門口塚、高尾山子塚古墳築造 石作、愛野向山に古墳ができる 墳 板瓦に水田が営まれる
1300	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	生 板瓦に水田が営まれる 山下遺跡に集落ができる 鶴松で稲作始まる
1200	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
1100	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
1000	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
900	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
800	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
700	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
600	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
500	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
400	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
300	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
200	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
100	聖徳太子摂政となる 仏教伝来	縄 掛ノ上に集落ができる 愛野向山、板瓦に集落ができる
紀元1	倭国国王が後漢に使いを送る 稲作、金銀器の使用始まる 1万年前、縄文時代が始まる	縄 長谷平、大畑に集落ができる 山田原に人々が住み始める

「坂尻」って、どんな遺跡？

坂尻遺跡は、昭和55年（1980）に袋井バイパス予定路線内の調査により発見されました。調査は、それから今年度まで15回にわたって行なわれました。その結果、坂尻遺跡は弥生時代の後期から近世にいたる数時代、千数百年間の遺構や遺物が地下にねむる複合遺跡であることがわかりました。なかでも中心となるのは、古墳時代の集落と奈良時代の郡役所跡です。

坂尻遺跡が、郡役所だときめる上で重要な手がかりとなったのは「×野厨」とか「佐野厨家」と書かれていた土器片でした。二つとも佐野郡の郡家に付属した台所を意味しています。奈良時代の郡家は、都と地方を往来する役人や国内を施行する国司たちのために宿泊の施設が設けられていました。そのための食堂施設があり、それを厨家または厨といい、佐野厨家などと郡名をつけて他の郡のものと区別していたのです。また「日根駅家」とか「駅長」などと書かれた土器も数点発見されました。駅家とは、郡家に付設された古代の公的な交通機関で、山陽道以下の七道に置かれ大切な交通・通信手段でした。この他に遺物として、多量の須恵器、土師器、木簡、和同開珎、管玉などをはじめとして、帯金具、銅印、分銅などの金属製品、土人形、土馬などの土製品、鎌先、えぶり、斎串、馬形、舟形、げたなどの木製品、それに獣骨や種子などの自然遺物があります。



銅帯金具



和同開珎



「松」銅印



分銅

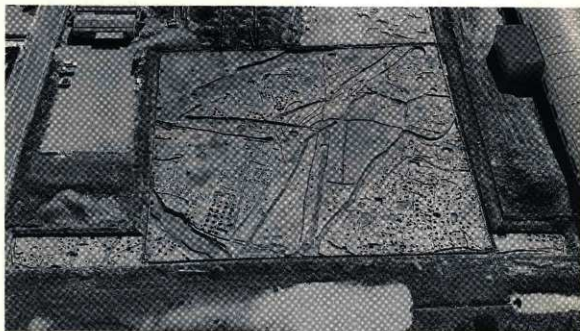


土器墨書・日根駅家

空から見た坂尻遺跡



▲古墳時代の全測図



▲古墳時代航空写真（北）

I住む……住居と集落（古墳時代の坂尻遺跡）



▲掘立柱建物

すまゐのかたち

今回の調査で判明した古墳時代後期の住居の形態は、縄文時代以来の住居形式である半地下式で土間床の竪穴住居と、地上式住居あるいは高床の倉庫と考えられる掘立柱建物の2種類がありました。

竪穴住居跡は北側の畔にかまどが設けられ、その近くには灰や糞などの炊飯用の土器、貯蔵用の穴などが発見されます。

掘立柱建物は庇の付けられた大形のものや庇の付かないやや小型のものが住居、総柱の柱間2間ないし3間のものが高床の倉庫と考えられます。



首長は、溝に囲まれた場所に

▼古墳時代の遺跡中心部復原イラスト



▲倉庫



▲庇付き掘立柱建物



▲竪穴住居

村のようす

古墳時代の坂尻遺跡は、大小の溝によって囲まれた集落でした。集落は、掘立柱建物が立ち並ぶ地区と、竪穴住居や倉庫と思われる建物が集中する地区とに分かれています。

集落の中心は、幅5～6mの溝で囲まれています。集落内は、有力者の館と思われる庇付き掘立柱建物を取り囲むように建物が建てられていました。有力者の館の背後には、倉庫跡が4機確認できました。また、中心城の溝に南で囲まれた祭祀場らしき場所が設けられていました。

中心城の回りには、幅2～3mの溝に囲まれて、倉庫群や竪穴住居が集中する地区があります。ここでは中心城のような掘立柱建物は、確認できません。有力者の倉庫を管理しながら生活する庶民の姿が想像されます。

このように、古墳時代の坂尻遺跡は、掘立柱建物に住む有力者が、その回りに竪穴住居を営んで生活する庶民を統率して村を維持していたのでしょう。

I書く……名前、地名、身分

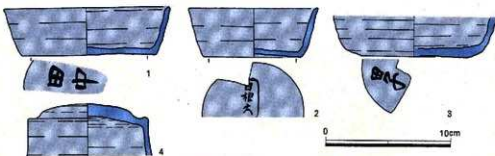


538年、百済の聖明王が仏像と経論をもたらし、初めて日本に漢字が伝えられました。それから200年ほど経過し、奈良時代になると律令社会のなかで文字が大きな役割を果たすようになります。

墨ばかりでなく、へうで刻んだり、朱で文字を記した土器を総称して「墨書土器」と呼んでいます。板瓦遺跡からは今までに500点以上の奈良・平安時代の墨書土器が出土しており、その出土量・内容の豊富さは他の遺跡を圧倒しています。

墨書の内容は大きくわけて①役所名・職名、②地名・郷名、③人名、④その他に分類することができます。佐野郡家(郡役所)の台所を意味する「佐野厨家」、玉郷長(玉村の首=村長)、駅関係の墨書(「駅長」「駅子」「三年水鉢駅」等)は役所名・職名を代表するものです。地名・郷名のなかには、「山科」「西田」など今も袋井市内に残る地名が見られます。「朽邊」は「久津部」のことでしょうか。これらは1300年前の奈良時代にまで遡る伝統的な地名と言えます。「有主」「竹村」などは人名と考えられ、「大上日詣駅家」は手元に紙や板が無かったのでしょうか。土器片に記したちょっとしたメモとも解釈されています。

今回の発掘調査で出土した「田中」「田子」「日根大」の意味はよくわかりません。「日根大」の日根は奈良・平安時代、佐野郡に属していた郷名にその名があり、「田子」は「田を耕す人」ほどの意味なのでしょうか。



▲今回調査出土の墨書土器・硯



玉郷長



驛長



三年水鉢驛



朽邊



西田

生活する……井戸は語る



▲まじない札出土状況



▲井戸枠（まげもの）のある井戸

今回の発掘で平安～鎌倉時代にかけて使われていたと思われる井戸跡は10ヶ所確認されました。内2つの井戸から、曲物が出土しています。

井戸内からは、廃絶時に投げ入れられたと考えられる茶碗、すい、土器片などが出土しました。また「井戸祭り」のさいに使われたと思われる小刀、刀型木製品、まじない札らしい木製品も出土しています。

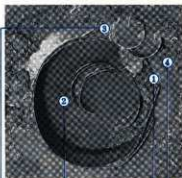
大きな建物跡の近くに井戸が確認されているので、1戸に1つの割合で井戸は作られていたようです。また、東海道に近づく程数が多くなるので、東海道を通る人々のための井戸も作られていたのかもしれない。

井戸の中の茶碗

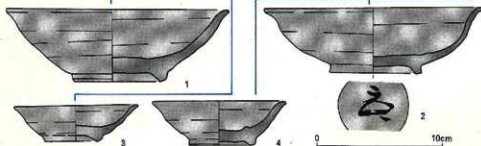
井戸の中からは当時の人が捨てたごみや落とし物が出土することがありますが、今回の調査ではこうした出土品以外に、まじないに使ったと思われる完形の茶碗が出土しています。

図に示しました茶碗は今から850年前の平安時代末のものです。大きいもの（口径16cm前後）と小さいもの（口径10cm）があります。2のように茶碗の底には意味はよくわかりませんが、たがまじないの字（記号？）が墨で1字書かれています。なお、1は湖西市の古窯跡群で、2は大須賀町の清ヶ谷古窯跡群で、3、4は尾張の窯跡群で焼かれたものです。

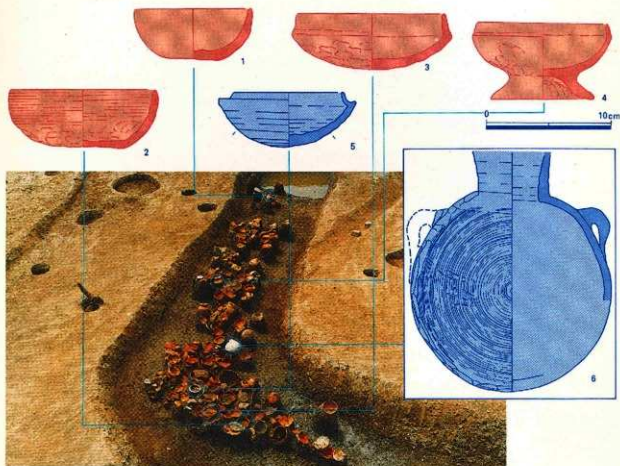
このようなまじない道具は、当時の人の井戸に対する深い信仰を知るうえで注目されるものです。



▲茶碗出土状況



願う……残された土器



▲おびたしい土器

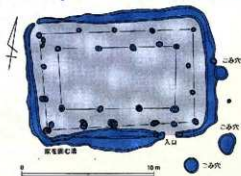
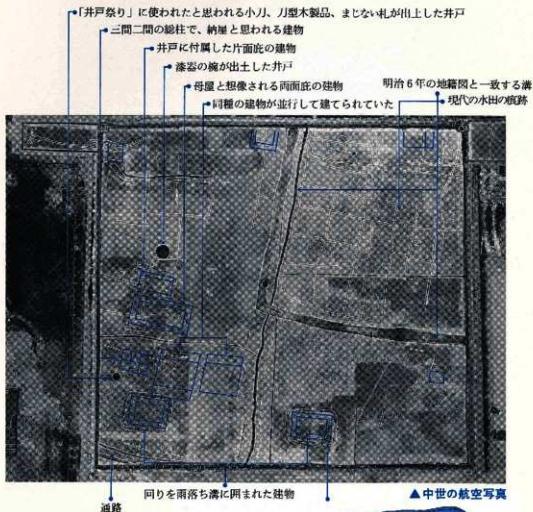
村のまわりに掘られた溝のなかから今から 1400 年前の古墳時代後期の土器が大量に出土しています。これは、単なるごみとして捨てられたとも考えられますが、使用可能な完全な形のものも多数出土していることから、ひょっとすると村の引っ越しのときにまとめて捨てていったか、祭りや儀式、宴会に使った土器をまとめて捨てたとも考えられます。

古墳時代後期の土器は写真でみるように、オレンジ色をした素焼きの土師器（1～4）とねずみ色をした陶器質の須恵器（5・6）と呼ばれる 2 種類があります。土器の形は丸底の坏類（1～3・5）のほか足のついた高坏（4）、水筒として使われた提瓶（6）、甕、壺、甔などがありました。捨てられていた土器のほとんどは土師器で須恵器は古墳や横穴などから出土することが多く、死者に備えた明器であったことがわかっています。このように溝から出土した土器は、考古学的な時代判定に使えるばかりでなく、様々な形をしており当時の人々の生活ぶりを今に伝える貴重なタイムカプセルです。

！清盛のころ、坂尻は？



中世の坂尻遺跡は、2～3棟単位の掘立柱建物が整然と配列された「屋敷地」だった。



地震が残した足跡



▲河の中の噴砂



▲カマドを切る噴砂

今年度の調査の中で、注目されるもののひとつに地震に伴う噴砂の痕跡があります。噴砂とは、大規模な地震（マグニチュード5以上）に伴って発生する液状化した地層が粘土の層を引き裂いて吹き上がってきた痕跡です。こうした現象は過去の「東海地震」の存在を示していると考えられます。今回の調査で明瞭な痕跡が、20ヶ所程見られました。上の写真のように、竪穴住居のカマドがずれている跡がはっきりとわかるものもありました。

加藤芳朗、寒川旭両先生の地質の専門家が、現地で観察を行なった結果、この噴砂の跡は、『日本書紀』天武天皇12年10月14日の記事（諸国地大ニ震フ、就中、上佐国最も激烈ヲ極メ、田苑五十餘万頃没シテ海ト為リ、伊予国ノ温泉亦屏止セリ、コノタ京都ヨリ東方ニ鼓 如キ鳴響アリ）にある「南海地震」に伴った「東海地震」の痕跡の可能性が高いという事でした。

大和ハウス工業㈱中部工場建設に
伴う板瓦遺跡緊急発掘調査概報

板 瓦 遺 跡

平成3年3月30日

発行・編集 袋井市教育委員会

〒437 袋井市新屋一丁目1番地1

TEL 0538(43) 2111

印刷(画) デザイン エム・エス・シー

袋井市久能1977の7

TEL 0538(42) 3164